

ひとが生き生きと暮らすための情報誌

びよんど

Beyond gender

2010.8 VOL.28

水戸市男女平等参画センター
びよんど



特集

メディアとの上手なつき合い方

テレビ番組の視聴者として……………4

スポーツでひとつづくり・まちづくり

FC水戸ホーリーホック……………2

9月は水戸市男女平等参画推進月間です…………7

さんかくデータ……………8

水戸市男女平等参画推進基本計画

後期実施計画がスタートしました…………6

男女共同参画都市宣言

美しい自然に恵まれ豊かな歴史を¹⁸⁵⁰育んできた、わたしたちのまち水戸
わたしたちは、水戸のまちをさらに輝きあふれる明日へとつなぐため、「平等・創造・平和」を基本理念とし、男女がともにわかちあい、ともにつくる社会の実現に向け、水戸市を「男女共同参画都市」とすることを宣言します。

- 1 わたしたちは、ともに一人ひとりが尊重しあい、平等のもとに生き生きと暮らせるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに自らの意思で社会のあらゆる分野に参画し、次の世代へとつなぐ豊かでゆとりのあるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに地球環境を守り、世界へ向けて、友情と平和の輪を広げるまち水戸をつくります。

平成8年4月1日

水戸市

※誌名「びよんど」は1997年、公募により命名されました。 Beyond gender (性差を超えて)の思いが込められています。ジェンダーとは、社会的性別のことです。



鈴木郁恵さん

だと割り切って、自信を持ってガツガツいっていいんじゃないかな。個性が発揮できていれば「どこで輝いたっていい。仕事でも、育児や家事でも、好きなことでキラキラできていれば素敵だと思う」

水戸ブルー。夢をかたちにプロジェクト

現在MHHでは、観客数を増やし、そのにぎわいを水戸や茨城の活力に結びつけるため、MHHホームタウン推進協議会を中心にさまざまな取り組みを行っています。「地域のひとや団体、企業が協力してくれて、みんなが進めている。心強い仲間がたくさんできて、MHHはもう独りじゃないと実感しています」

ファンからの公募により付けられたプロジェクト名について「MHHが『夢をかたちに』と言えるところまで来れたことに素直に感動しています。大好きなプロジェクト名です」と館さん。

MHHの誇るSGGK (スーパーグレートゴールキーパー) 本間幸司選手にインタビュー

—水戸の守護神も、ご家庭では二児のパパ。パパがJリーガーだとわかっていますか？

—応、わかっているみたいです。

—育児は、積極的に取り組んでいるほうですか？

どうだろうなあ。ただ、いっしょにいられる時間があるので、遊び相手になっています。妻がたいへんなときは手伝っていますし、お風呂にいれるのは僕の役目ですね。

—「自分らしさ」とはどんなところですか？

難しい質問ですね(笑)。こだわりをもっていろいろ取り組んではいますが、もちろんサッカーは特にこだわってやっています。そのときそのときで、どんどん変化していつているので。



写真提供：(株)フットボールクラブ水戸ホーリーホック

—家庭や子どもができて変わったところは？

全てと言って良いほど変わりましたね。家庭をもってサッカーをより一生懸命やるようになりました。子どもにも理解できるようになるまで、ピッチに立っていたいと思っていますから。

—びよんど読者に向けて

地元の人たちの応援が、本当に僕らの励みになっています。まだMHHのサッカーを見たことのない人でも、絶対に楽しませる自信はありますので、ぜひ一度スタジアムに足を運んでください。

ケーズデンキスタジアム水戸に応援に来て!!

鈴木さんは「MHHは一言でいうと、みなさんにとても『近い』チーム。ウチの息子が、近所のお兄ちゃんがガンバってる、みたいな感覚で応援していただけたら」とのこと。「いつも温かい応援で、MHHを支えていただき本当にありがとうございます。みなさんと一緒にもつともつと水戸や茨城を盛り上げていきたいと思っています。ぜひ一度スタジアムに応援に来てください。これからもよろしくお願いします」

MHHをスタジアムで応援しよう!!

選手のプレーにハラハラドキドキ！
スタジアムには興奮と感動がいっぱい。
みんなで応援して水戸を盛り上げよう！

●ホームゲームスケジュール

試合日	キックオフ	対戦チーム	会場
9月18日(土)	13:00	カタレ富山	Ksスタ
9月23日(木)	18:00	ファジャーノ岡山	未定
10月3日(日)	13:00	愛媛FC	笠松
10月31日(日)	13:00	柏レイソル	Ksスタ
11月14日(日)	17:00	コンサドーレ札幌	Ksスタ
11月20日(土)	12:00	徳島ヴォルティス	Ksスタ
11月28日(日)	13:00	ヴァンフォーレ甲府	Ksスタ

Ksスタ・ケーズデンキスタジアム水戸(水戸市小吹町 2058-1)
笠松・笠松運動公園陸上競技場(那珂市向山 1282-1)

●観戦チケット料

	大人	小中高・シニア
メイン中央席	3,000円	3,000円
メインスタンド席	2,500円	1,500円
バックスタンド席 アウェイサポーター席	2,000円	1,000円

前売り券は、500円引きになります。

■問合せ先

水戸ホーリーホック事務所 電話029-212-7700

特集

メディアとの上手なつきあい方

～テレビ番組の視聴者として～



石川 勝博さん

普段何気なく見ているテレビ番組。メディア・リテラシーを身に付けて、いつもと違った角度から見えてみませんか？
テレビの見方や現状など、常磐大学人間科学部コミュニケーション学博士の石川勝博さんに講演していただきました。

メディア・リテラシーって？

「メディア」とは、テレビや新聞雑誌、パソコンやケータイなどのこと。「リテラシー」とは、字を読むことができる、例えば本を読むことができるということ。

つまり、「メディア・リテラシー」とは、メディアからの情報を読み解いて使いこなす能力のことをいいます。

こういいますと、パソコンの使い方などを連想する人も多いかと思いますが、ですが、本を読むために、国語辞典を引いたり、何度も読み返したりして勉強が必要なように、テレビを見るための能力が必要だと考えられています。

実際にカナダでは、テレビの見方の授業をやっています。中学校の国語の授業時間の10分の1が、高校では3分の1が当てられています。ある意味、本を読むのと同じようにテレビを見るという勉強が必要であると考えて、実践している国もあるのです。

テレビの見方？

テレビの見方ってスイッチを入れるだけ？

「いえいえ、皆さんこんなことをご存知でしょうか。子ども向けのアニメを見ますと『部屋を明るくして、離れてみましょう』という注意書きが出ています。97年にアニメを見ていた子どもが光過敏性発作を起こしたという事件がありました。全てのお子さんがそういうわけではありませんが、こういう表示がされるようになります。

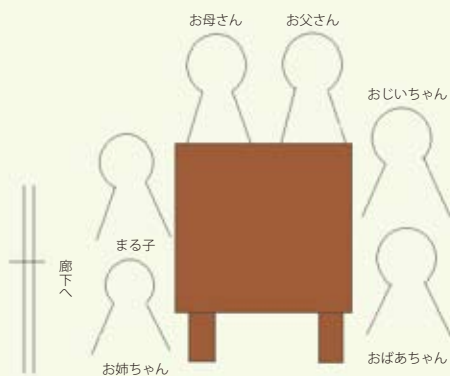
それ以来、日本民間放送連盟（民放連）という所の取り決めで『目がチカチカするのはどれくらい』というルールが作られています。そういった経緯を知っておくのも一つの見る能力です」と石川さん。

テレビに映る家族観

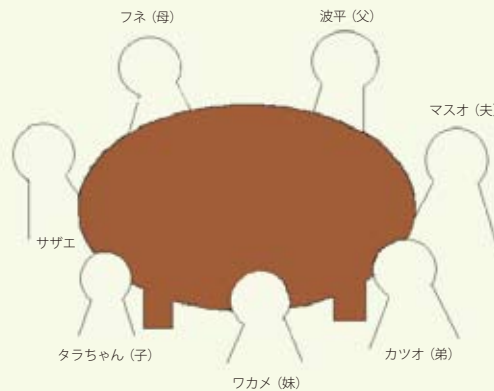
テレビから昔と今の家族観というのを知ることができます。

例えば、皆さんもよくご存知の「サザエさん」と「ちびまる子ちゃん」という2つのアニメに描かれている食卓の風景から、世代の異なる家族観が見て取れるそうです。

下の絵をご覧ください。何が違うのか分かりますか。



ちびまる子ちゃん



サザエさん



「サザエさんでは、台所に近い所は女性（フネ、サザエ）が座る。そして、やや上座はお父さん（波平）と夫（マスオ）が座る。で、男の子（タラちゃん）はお母さん（サザエ）の側に座るといふ、昔ながらの家族観が映っています。また波平は、いい意味で昔気質の頑固親父として描かれています」

一方、ちびまる子ちゃんは、どうでしょう。

「ちびまる子ちゃんはやや新しいので、夫婦がペアで座るんですね。いわゆる勝手口に近い所に女性が座るのが今までの家族観ではありません。また、まる子はおじいちゃんに対してタメ口、対等な口の利き方をします。そういう形で、だいぶ家族の描き方が違うというところもテレビから見えてきます」

今度番組を見るとときには、こういうところも注意して見てみるとより楽しめそうです。

テレビ視聴の現状

テレビ離れと言われていますが、実際のところはどうなのでしょう？

「不況のため、テレビの広告費が落ち込んでいます。前年比10.2%下がっています。比較的好調なのはインターネットだけです。とは言いながらも、全広告費約6兆円の中の1兆7千億円はテ

レビが占めています。『これからインターネットの時代で』とか言われますが、まだまだテレビが主要だということは間違いないです」と石川さん。ちなみにインターネットの広告費は約7千億円だそうです。

ところで、皆さんは1日どれくらいテレビを見ていますか。今回受講された方からは、「5時間」や「6時間」といった声が上がりました。

「日本人全体の平均では、平日は1日3時間半、週末になると4時間を越えます。『食事をしながら見る』といった『ながら視聴』も含めてはいますが、テレビはまだまだ身近なメディアであるというところが分かります。日本人全体で一日に必ずテレビを見るという行為をする人は、なんと9割もいます。これはとんでもない数字です。『普段どんなことをしていますか』という質問に対して『テレビよりも必ずこれはやってい』

『食べる』の次に『テレビを見る』という行為を必ずやっているんですね。それくらい我々の中で身近になっているということなんです。若者がテレビを見なくなっているという「テレビ離れ」の現状は確かにあります。ですが、まだま

だテレビは重要であり、大切なメディアであるということは間違いないです。なさそうですね。

メディアとの付き合い方

では、メディアの影響力を正しく理解するにはどうしたらよいのでしょうか。

一般的にいつて、テレビが私たちに情報を与える力は強力です。皆さんも頭に残っているCMソングなどあるのではないのでしょうか。また、ニュースなどもすぐ手に入りますよね。

「ただ、態度や行動を変える力は人間の方が強い」と石川さんは強調します。

「いろいろな条件が重なったときにメディアの影響は強くはなるのですが、それ以上に強いのは人と人とのコミュニケーションです。高い買い物をするときに広告を見てそのまま買うでしょうか。やはり知っている人に聞いて買うことの方が多いと思います。こうした相談などできるような人間関係が弱くなると、相対的にメディアの影響が強くなります。要するに、身近な人よりもテレビの方を信用するようになると思います。メディアやテレビの影響を受け過ぎると騒がれていますが、そういうときだからこそ人と人との関係を大切にしていくことが大事です」

最後にまとめとして、石川さん

は「メディアから積極的に満足を得ていきますか。一方的に影響されるのではなく、世の中の情報を得たり、会話の種にしたり、自分の考えをまとめる参考にしたり、気晴らしをしたり、と有効に活用し、生活を豊かにできるのもメディアです。確かにメディアに騙されない賢いテレビ視聴者になることは重要です。けれども、『作り物のドラマなどのベタな展開に感動したりするのはどうか』というやや斜に構えた見方をするのが『賢さ』ですという考え方は少し問題かなあ、と。それこそテレビの表現にいちいち目くらを立てるよりも、むしろテレビを見て作り物だと知っていても感動している人の方が人間味があり、積極的に活用するリテラシーがあるのではないかと思えます」と締めくくりました。



水戸市男女平等参画推進基本計画後期実施計画が スタートしました！

水戸市では平成16年度より男女平等参画社会の実現に向けて今後11年間の指標となる「水戸市男女平等参画推進基本計画」を策定しております。本年度は後期実施期間と定めてある平成22～26年度の最初の年となります。そこで皆さんに、後期実施計画についてその詳細をお知らせいたします。水戸市男女平等参画推進基本計画では、「人権の尊重と男女平等」を大きな柱に、6つの基本理念（*1）を掲げました。後期実施計画においても、継続して基本理念として掲げ、男女平等参画社会の実現を目指します。後期実施計画では、男女平等に関する国や県の取組の動向をふまえ、後期実施計画期間に取組むべき施策として、7つの基本目標（*2）のもと、新たに新規事業（*3）を掲げました。新規事業の1つ、「男性の家庭参画の促進」としては、男性を対象にした講座やファザーリング（父親である事を楽しむ生き方）に関する普及啓発等、男女平等参画の意義と責任や、家庭への参画を重視した啓発活動を行うということで、12月頃にファザーリング講座を予定しています。「ドメスティック・バイオレンス防止に関する啓発」では、国の定めている「女性に対する暴力をなくす運動」期間に連携し、ドメスティック・バイオレンス防止に関する啓発事業を計画中です。また後期実施計画を実効あるものにするために、平成26年度までの目標値を設定することとします。目標値の設定を目指して、毎年発行の「水戸市男女平等参画施策の概要」の中で実施状況を報告していきます。

基本理念（*1）

- 1 男女が性別による差別的取扱いを受けず、個人としての尊厳が重んじられ、能力を発揮する機会が確保され、男女の人権が尊重されること。
- 2 男女がそれぞれに自立した個人として、多様な生き方が選択でき、かつ、尊重され、自己責任に基づく自己決定権が確立されること。
- 3 男女がお互いの理解の下で、生涯にわたる性と生殖に関する健康と権利が尊重されること。
- 4 男女がそれぞれ家庭及び社会の責任を担い、家庭、学校、地域、職場その他あらゆる場における活動に平等な立場で参画し、責任を分かち合えること。
- 5 男女がそれぞれ政策、方針及び計画の決定に平等な立場で参画する機会が確保されること。
- 6 男女がそれぞれ国際的協調の進展を踏まえ、多様な価値を創造し、形成すること。

基本目標（*2）

基本目標Ⅰ	家庭における男女平等参画	基本目標Ⅴ	国際的協調と国際理解の推進
基本目標Ⅱ	学校における男女平等参画	基本目標Ⅵ	市民一人ひとりの意識の創造
基本目標Ⅲ	地域における男女平等参画	基本目標Ⅶ	推進体制の充実
基本目標Ⅳ	職場における男女平等参画		

新規事業（*3）

- ・男性の家庭参画の促進
- ・水戸市DV※対策基本計画の策定
※ドメスティック・バイオレンス
- ・ドメスティック・バイオレンス防止に関する啓発
- ・地域生活における男女平等参画の促進
- ・防災（災害復興を含む）における男女平等参画の促進
- ・環境保全分野における男女平等参画の促進
- ・地域おこし、まちづくり、観光における男女平等参画の促進
- ・観光分野における男女平等参画の促進
- ・地域における多様な主体による連携・協働
- ・地域福祉計画に基づく施策の推進
- ・病児保育の実施
- ・幼稚園における預かり保育の充実
- ・幼稚園の園庭の開放
- ・事業所の男女平等参画に関する取組状況調査の実施
- ・ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組の実施
- ・市の発注する公共工事等における競争入札参加登録業者への優遇措置の実施
- ・ホームページの充実
- ・企画提案型市民協働啓発講座の実施

水戸市男女平等参画推進基本計画後期実施計画の期間は、5年間です。市民の皆さん、事業者の皆さんと協働で、平成26年度まで目標を達成するよう取り組みます。

男女平等参画社会推進のために・・・

○男女平等参画苦情処理委員会

男女平等参画に関する苦情の申し出を、公平・中立な立場に立って調査し、解決を図っていきます。詳細は、水戸市男女平等参画課までお問い合わせください。

○男女平等参画推進委員会

男女平等参画社会の推進のために設置された、市民・事業者・学識経験者から構成される委員会です。総合的な施策と重要事項を調査審議します。



9月は水戸市男女平等参画推進月間です

水戸市では、男性と女性が平等な機会に恵まれ、あらゆる分野の活動に参画していける社会の実現を目指しています。その取り組みの一つとして、広く市民や事業者の皆さんの理解と関心を深めるため、毎年9月を水戸市男女平等参画推進月間としています。



その取り組みの一つとして、広く市民や事業者の皆さんの理解と関心を深めるため、毎年9月を水戸市男女平等参画推進月間としています。

平成22年度男女平等参画推進月間の標語

最優秀作品

平等に 同じ目線で考えよう

水戸市寿小学校6年 佐藤 あかり

優秀作品

助け合おう い性のちがいを のりこえて

水戸市立緑岡小学校5年 平 結衣

作ろうよ ^{わたし わたし} 男と女の夢 一緒に描ける 明るい未来

水戸市立緑岡中学校3年 横須賀 史織

佳作

思いやり 互いを認め 男女の輪

水戸市立吉沢小学校6年 勢司 真那

つくろうよ 男子と女子の 笑顔のわ

水戸市立妻里小学校6年 谷津 美波

人の力は世界を変える 差別なんて消しとばせ

水戸市立第五中学校3年 川村 慧

支え合う 男女の心 いつまでも

水戸市立飯富中学校2年 三田寺 未歩子

家族なら 家事は分担 ごみは分別

水戸市 海老沢 佳之

男と女 昔も今もこれからも 助けあうのが 当たりまえ

水戸市 西連寺 節子

男女平等参画推進月間には、市民団体と共催事業を行います。ぜひ、ご参加ください。

託児を希望する方は、それぞれの託児申込締切日までに、託児料（1名200円）を添えて男女平等参画課へ。

男女平等参画映画祭

作品：「ぷりてい・ウーマン」

(日本映画 111分)

日時：9月4日(土)午後1時30分上映

会場：みと文化交流プラザ 6階大会議室

料金：300円

定員：200名(先着順)

託児締切り：8月26日(木)

主催：水戸女性会議

あなたのまわりの「男女平等って」

日時：9月10日(金)午後6時～7時30分

会場：男女みと文化交流プラザ 2階講習室

料金：無料

定員：20名(先着順)

託児締切り：9月1日(水)

主催：みと男女平等参画を考える会

みと考問塾 2010

「あなたが元気になる講座ー市民力アップを目指してー」

日時：9月18日(土)午前10時～正午

会場：みと文化交流プラザ 2階講習室

料金：無料

定員：50名(先着順)

託児締切り：9月9日(木)

主催：水戸女性フォーラム

問合せ・申込み先

水戸市男女平等参画課

〒310-0063 水戸市五軒町1-6-48男女平等参画センターびよんど

電話 029-226-3161 ファクシミリ 029-226-3162

ヒューマンライフシンポジウム 2010

10年のあゆみーそして未来へ

「日本女性会議 2001 みと」から

講演「ひとりひとりが幸せな社会のために」

岡島敦子(内閣府男女共同参画局長)

パネルディスカッション

「水戸市男女平等参画基本条例制定からこれまで、そしてこれから」

日時：9月25日(土)午後1時～4時

会場：茨城県県民文化センター 小ホール

料金：無料

託児締切り：9月11日(土)

主催：水戸市

企画・運営：特定非営利活動法人M・I・T・O21

戦後の水戸の女性たち

日時：9月26日(日)午後1時～3時

会場：みと文化交流プラザ 2階講習室

料金：無料

定員：30名(先着順)

託児締切り：9月16日(木)

主催：水戸の女性史をつくる会

あたまとからだと♥のストレッチ教室

日時：9月29日(水)午前10時～正午

会場：みと文化交流プラザ 2階講習室

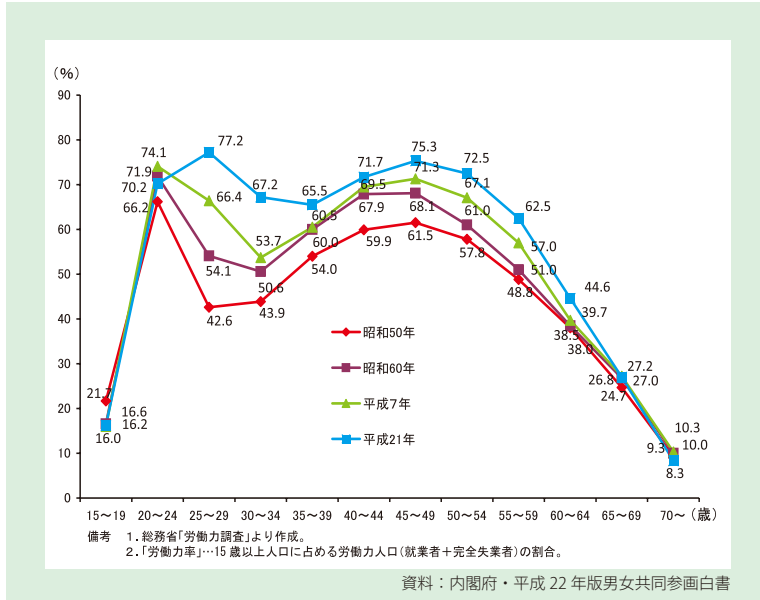
料金：無料

定員：60名(先着順)

託児締切り：9月17日(金)

主催：特定非営利活動法人M・I・T・O21

女性の年齢階級別労働力率の推移



M字カーブとは、女性の年齢階級別の労働力率(労働力人口/15歳以上の人口)を折れ線グラフで表すとアルファベットの「M」の文字を描くことからきている言葉です。女性が結婚、出産、子育ての時期に、一時的に離職することに起因して、Mの字のくぼみとなって表れています。

しかし、左のグラフにあるように、昭和50年からほぼ10年ごとの変化を見ると、Mの字の形が年をおって変わってきています。昭和50年にはMの底は25~29歳でしたが、平成21年の底は35~39歳に移行し、逆に同年の25~29歳は労働力率のピークとなっています。また、平成21年の30~34歳は、35~39歳と並んでほぼM字の底となっていますが、平成7年の30~34歳と比べて労働力率が13.5%(53.7→67.2%)も上昇しており、グラフ全体がM字形から欧米諸国で見られるような台形に近づきつつあります。これらは、女性の晩婚・晩産化による子育て年齢の上昇、企業における育児制度の充実などに起因していると思われます。



男女平等参画センター「びよんど」が生まれ変わりました

男女平等参画センター「びよんど」は、男女平等参画社会への一層の推進を図るため、より拠点性の高い施設としてこの4月より新たにスタートしました。場所は、これまでの施設(旧男女文化センター)の道路を挟んで向かい側で、昨年度まで五軒市民センターのあったところです。施設は、登録団体の皆さんが自由にお使いできる「団体室」や「交流スペース」、関係図書・資料を集めた「資料室」、そして会議や勉強会ができる「研修室」を2室備えています。団体室や研修室をご使用になる場合は、団体登録が必要となりますので、事前に男女平等参画課にご連絡下さい。

また、今年度も男女平等参画社会への意識の高揚や啓発活動の一環として、当センターを中心として、様々なセミナーや勉強会を行っています。広報みや水戸市のホームページ等でお知らせしますので、どうぞふるってご参加下さい。



第2研修室(25名まで)

編集後記

情報誌「びよんど」も発刊から13年、28号を数えますが、その間編集に携わる人も、編集方法も徐々に変わっています。男女平等参画センターがリニューアルしたのとあわせ、情報誌「びよんど」も少しずつですが、皆さんに興味を持っていただける内容にしていきたいと思っています。(N)

発行日 / 平成22年8月
 編集・発行 / 水戸市 市長公室 男女平等参画課
 〒310-0063 水戸市五軒町1丁目6番48号
 水戸市男女平等参画センター びよんど 内
 TEL 029-226-3161 FAX 029-226-3162
 ホームページ / <http://www.city.mito.lg.jp>
 印刷 / 関東印刷株式会社

